

だれもが住みよいまちをめざして

KOKOKARA会 れぽーと

一宮町花火大会 & マリン・スタジアム野球観戦記



2005年7月30日、夕刻から一宮海岸で一宮観光協会主催の「納涼花火大会」が行われ、KOKOKARA会の7月の行事として、他に地域福祉ネットワークにも呼びかけ、総勢30名ほどの賑やかな参加となりました。

遠くに漁火が揺れ飲み込まれそうな夜の波、幻想的な空と海のキャンバス。ドシンというお腹に響く音と共に大輪の花のように咲き、一瞬でも長く留まろうとするかのようになく長く尾を引く尺玉、水上で縦横無尽に走る色

花火以外では、せっかく花火大会に大勢来ても、みんながあっちこっち向いていて、お互いの顔を見ることができなかつた。次回からは明る



とりどりのスターマインドなど。差し入れのたくさんの方の手作りのおにぎりやサンドイッチ、お惣菜など、中にはお手製の座布団まで用意してくださった方もいました。親子参加の方々は仲睦まじく、車椅子で疲れたら寝転がり、思い思いのリラックススタイルで楽しそうに見入っているようでした。

一宮観光協会の方々には、花火大会参加願いを快く受け入れてもらい、地域参加範囲が広がりました。来年もみんなが参加できるようなユニバーサル企画をお願いしたいと思います。

(文・長生ひなた 中島民恵)

参加者の声

★松尾博一さん

花火はよかった。特に水中花火は。その後、空と水面に映った花火の変化が特に目を引いた。

花火以外では、せっかく花

火大会に大勢来ても、みんな

があっちこっち向いていて、

お互いの顔を見ることができ

ひ な た



2005年10月秋号

平成17年10月15日

Vol. 5

発行元

長生・夷隅

地域福祉ネットワーク
(代表：朝比奈ミカ)

〒297-0073

千葉県茂原市長尾2694

中核地域生活支援センター

長生ひなた

TEL 0475-22-7859

FAX 0475-22-7844

印刷：さくら印刷

題字：濱田真史さん

いつちに集まり、みんなの顔を見て自己紹介をする。また、早く帰れるよう配慮してほしい。

★渡辺悦子さん (KOKOKARA会代表)

KOKOKARA会の年間のイベント企画に、夏の花火大会に行こうという声が上がったのが、去年のことでした。私たち車椅子を利用する者には、なかなかこみの中に見に行くことは不可能なので、今まではテレビ画面で見ただけでした。



左は松尾博一さん、右は白井達也さん

松尾さんはこの9月9日に入院先で急逝され、花火大会は最後の外出となりました。重度の障害にもめげず画業に励む姿は、私たちに勇気と感動を与えて下さいました。ご冥福をお祈り致します。

大変なので、駐車場に近いスペースを確保して貰えることで、花火が見られるようになり、会のメンバー全員喜びました。

花火大会の感想を語ってくれたメンバーの白井達也君は、「夜空に上がる花火の一つひとつが私たちに与えて感動でした。その中でも尺玉は、心に響きそうな迫力で、一同オーッと声を上げてしまいました」。この感動は、会のメンバー全員が同じだったのではと思います。

「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。」（日本国憲法第25条）

花火も、プロ野球も文化だ！

今回は「球場へ車椅子で出かけよう。プロ選手の技を身近で楽しもう」と9月4日、千葉ロッテマリーンズ球場で日本ハムとの公式戦を楽しみました。

車椅子の方4人、介助者6人が、JR茂原駅に集合。駅員の方にエスカレーターでホームに上げていただきました（所要時間は4台で約13分）。乗り替えの蘇我駅と目的地の海浜幕張駅にはエレベーターが設置され、車椅子が2台ずつ移動できました。「茂原駅にも早くエレベーターが付けばいいね」とは参加メンバーの声。

駅を出て「さあ球場へ」と意気込んだ矢先、駅前広場で猿回し芸の人だかりを発見、遊び好きの、いや文化志向の面々、さっそく人垣をかき分け猿の芸に釘付けとなる。

さて、球場までは路上横断1カ所、スロープ歩道1カ所を渡り、車椅子で約20分。球場に近づくと場内に流れ



金田洋平さん
「凄く白熱して面白かった」

込む川のように人が動き、広場の特設ステージではチアリーダーが跳びはね応援歌が鳴り響いて、いやが上にも



島田輝彦さん（左）
「楽しかった。誘ってくれてありがとう」

レベーターを降りたすぐ前のゲートからスタンドに出ると右手に車椅子の観戦スペース。バックネット裏でマウンドやバッターボックスが見やすい場所です。ゲートではチケットの半券を見せると何度でも出入りができ、広い車椅子専用トイレ（1カ所）は同じゲートの隣にあります。

台風の影響で曇り空なので助かったが、時折陽が差すと屋根のないスタンドはとても暑くなり、水分補給が必須。帽子や日傘、薄手の長袖シャツやタオルも用意したい。白井君、金田君は声援に夢中で気づかなかつたが、観戦後には顔と腕がすっかり日焼け

てちよつと疲れ気味。関さんは暑さをしのぐため

何度か通路に避難し、トイレへ行ったり、冷房の効いたグッズショップに逃げ込んだり

白井達也さん
「暑い日ハムの攻めに圧倒された」



券囲気が盛り上がりつてきます。正面入口の受付で予約しておいたスマイルシート（車椅子と介助者、各1000円）のチケットをいただき、エレベーターで二階通路へ。エ

しました。いずれにせよ、デイゲーム観戦には体力が必要です。

それでもみんな、球場に足を運び、スピーディーでシャープ

なプロ選手たちの動きに魅了され、スタンドの熱気にもまれながらそのエネルギーを存分に吸い込んで大満足のようです。残念ながらこの日、ロッテは負けました。なお第二陣として、葛岡さんと渡辺さんなど4名が9月18日にも観戦しました。

（文・長生ひなた 行政一成）

★葛岡三郎さん

プロ野球の試合、始めてなので面白かったです。電車で車椅子で乗れたのも良い体験でした。

★渡辺悦子さん

初めての野球観戦、プロの白熱したプレーは元より、応援する観客のウエーブやパフォームに、これまでになかった時間を味わいました。

それと、4人で太陽の下で飲んだビールのは最高でした。新たな文化に触れ合うことが出来ました。

手前左：葛岡三郎さん
手前右：渡辺悦子さん



関 啓治さん（手前）
「マリーンズ選手の動きが良く、大変楽しかった」



地域の福祉力（ちから）

「外房」子どもクリニックを囲む

仲間たちをたずねて

リレー形式で「地域の福祉力」を紹介するコーナーの3回目は、今年6月に開設された小児科専門のクリニックを囲む仲間たちの動きに触れたい。前回登場した「こだま」の近藤と阿部倉のふたりが訪問いたしました。

睦沢町から一宮町に抜けて国道128号を岬方面に車を走らせます。この道は時々、「こだま」の外出企画で出かける太東岬灯台に行く道です。灯台入り口を反対の駅の方に右折すると、すぐにかわいらしい坊やと女の子の描かれたクリニックの看板が目に入りました。電話での案内のとおり、すぐ又右に曲がると、広い駐車場に出来たての明るくて、やさしい黄色の壁に茶色の屋根の建物が見えました。キリンをイメージしたという建物にあたたかさを感じます。「病気の子どもを連れてきても、これならこわい、暗い病院のイメージじゃないね」ふたりとも思わず自分の孫の顔を思い浮かべ、わくわくしながら玄関を覗き込みました。



明るい外観

木をふんだんに使い、子どもたちの大好きな人形もお出迎えです。受付には小さなベッドがあり、子どもを寝かせられる配慮がされています。事務室とは一体になっており、星山さんの笑顔がそこに

ありました。長生・夷隅地域福祉ネットの設立総会で

ゆつくりお話して以来だったかと、ご無沙汰を詫び、星山さんのお話を伺いました。「外房」子どもクリニック（黒木春郎院長は今年

仲間を引っ張る星山さん



の六月に小児科専門のクリニックとして開設され、そのパンフレットには「私たちの願いは子どもの心身の健康をトータルに支援することです」と謳われています。「そのために、子ども専門の医師・看護師がいていいケアを行います。」この一行は普通は見えないなと思いました。星山さんたちのこだわりを感じる言葉です。医師のいる診察室の隣に「生活相談室」という部屋があり、地域ネットの子どもタウンミーティングの実行委員だった関看護師さんが全てを包み込んでくれるあたたかさで座っていました。ここでもなんでも相談できる安心感が伝わってきます。

☆患者さんはキューアよりケアを求めている・・・

地域医療、在宅医療と考えた時、介護や福祉を学ぶ医療という視点が見えてきて、患者や家族の求める医療がないと感じたそうです。平成七年から想いを医師たちの読む雑誌に投稿。夷隅郡内での啓蒙に努めたとのこと。一市五町の介護関係者での連携を図るため、平成十二年に「いすみネットワーク」が発足。医療と介護の接点が確立して行きました。今年「毎日新聞介護賞」に輝いたのは、活動の地道さと患者（利用者）の視点に立っていることが、社会に認められののだと思いました。

☆障害のある子どもフリーに来ていいよ・・・

障害があると一次診療を受けてくれる病院がないというお話にはびっくりしました。「風邪を引いた」「熱がある」と子どもは年中病気の心配が絶えません。元々障害があると、それだけで医師が門前払いするというのは信じられないけれど、現実なのだそうです。そんな心配をしなくていいよと、車椅子のまま入ることの出来るトイレが入り易い場所に作られていました。他にも幼児のための小さいトイレ、赤ちゃんに授乳するコーナーにはカーテンと流し台という具合に細かな所まで使う側の声を聞いているからこそこの配慮に、本当のあたたかさを感じました。

やっぱり孫を連れて来なくちゃ

阿部倉・うっとり・・・今日の目的何だっけ？

☆地域を支える仲間たち



同じ国道沿い一宮寄りにクリニックより一足先に動き出した「CS・ファミリー」がある。クリニックの仕事を終えた星山さんが続々と集まってくるヘルパーやケアマネの相談に乗っている。いすみネットでの学習や連携を基盤にして、介護保険・支援費の在宅ケアを支えます。高齢者・身体障害・知的障害・児童と誰でも受け入れられる準備がされています。

地域のやさしさ指数・あたたかさ指数上昇中。パワーを頂いた土曜の午後でした。（近藤記）

地域ネット

「長生・夷隅地域福祉ネットワーク」は進化・深化しています。別枠で紹介している3つの作業部会を中心にした取り組みの他にも多様な企画を行い、予定をしています。

☆医療に関する勉強会：障害を持った方の保護者を中心に行ったアンケートのとりまとめを行う作業が急ピッチで進行中。出来上がったものを基に今後、意見交換、学習会の開催などを検討しています。

☆助成金の勉強会：9月11日(日)AMに、茂原市内でPWプラスONEの活動をされている森川さんをお招きして学習会を行いました。助成金の申請から事業実施、報告までの一連の流れについて実際の活動の様子をご紹介いただきながら教えていただきました。

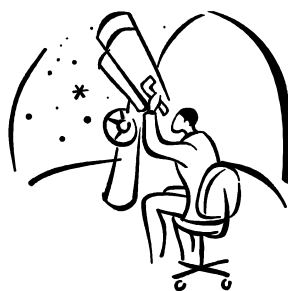
地域ネットでも、こども活動、障害児者に関わる事業など、活動の中に助成金の申請を行っていくことを具体的にはじめます。

☆長野県小川村「小川天文台」へ。10月22日(土)～23日(日)に行われる、茂原市子どもセンターの「2005年宇宙と緑とロマンの旅」に便乗して、地域ネットの皆で星を見るツアーに出かけます。満天の星の下で地域づくりに関する思い等を語り合ってくる予定です。

☆地域ネットの活動を広く地域の皆さんにお知らせしていくため広報「ひなた」の発行を行っています。今後インターネットを使ったホームページやブログの開設を検討していきます。

☆地域の課題を共有していくために中核センターひなたと連携しながら、学習会や講演会などの開催を企画していきます。ご要望などございましたら事務局宛にご連絡くださいませ。

(事務局・渋沢茂)



防災研究会

新聞報道(毎日新聞8・27朝刊)によると、8月25日から26日にかけて本県を横断した台風11号は、10市町村で住宅17棟が一部損壊、海の家5棟が全・半壊し、15市町村で25000世帯が停電したそうです。また、風速は勝浦市で38・5m/秒、総雨量は大多喜町で285mmだったそうです。年間降水量は恐らく1000ミリ程度でしょうから、その4分の1ほどの雨がたった半日で降ったこととなります。

災害が起こり、孤立しそうときは、何はともあれ「ひなた」に連絡を取ってみてください。特に障害児・者のいる家庭、要介護高齢者のいる家庭では非難すると言ってもまならぬことが起こりがちです。台風のような災害時は電話による連絡が、たぶん可能ですが、大地震の場合は、そうは行かないことが考えられます。防災研究会では、緊急時の連絡方法も考えてゆこうとしています。

自然災害及び人為的災害は、所によって大いに異なります。自分の家の立地条件を考慮して、自分のことは自分で守るという原則に沿った、それぞれの対策を立てておくことは、

イザというときに決定的に効果を発揮すると思います。

防災研究会では、今後、消防署の方を呼んで、緊急時の救急救命のやり方、緊急時の対応などを聞き、簡単な実習を行おうと考えています。日時、場所等具体的なこととはこれから交渉してゆかねばなりません。私達が中心的に考えている障害者・高齢者・乳幼児とその家族のことについて話してもらうつもりです。

(座長・佐藤八十八)

中核センターひなたでは、先の台風7号接近時に緊急防災体制をとりました。重度障害者や独居高齢者のうち自力で避難できそうにない方に対して、土砂崩れ・冠水・家屋倒壊の危険が予想される地域を最優先に、各家庭に避難体制の確認を電話などで行いました。警戒を要するお宅の位置を示したマップを作り、各市町村の防災担当部署とも連絡をとりました。その後の11号、17号に対しても引き続き同様の体制で臨みました。

各市町村の『防災マップ』には、土砂災害・冠水などの推定危険区域や活断層を示してほしいものです。また県のホームページには、降水量と河川の水位をリアルタイムに表示するシステムもあります。(行政)

私の友達で最近グループホームのお手伝いをしている人がいる。えっと、確か51か2…。彼女とは随分前にフジテレビで一緒の仕事をした仲間だった。当時はまだバブルという時代でなかなか面白い仕事だった。ありとあらゆる企業が付加価値を付け営業利益を上げ、美容業界もまさにそんな中において、関東一円の美容室をターゲットにコマースシャル撮りをする仕事をしていたのである。彼女との縁は偶然にもお互い障害を持った子どもがいることだった。

彼女の息子さんは一見どこにでもいる今風のお兄ちゃんだった。でも就職はかなり厳しくいくつものへこみを体験しながらとうとう有名コーヒー店で「いらつしやいませ」をすることになった。親として彼女は必死だったのだろうが、彼女のいいところはつかず離れず息子を見守ってきたように私には見えたのである。夜間の普通高校を卒業したのも親が道を作っていた。もちろん彼の頑張りがない。その後知り合いの企業に障害者雇用の道をお願いしたり、彼自身も自分から面接を受けたり頑張

っている話がいいつも彼女の誇りのように思えた。また、その彼女もケーキ作りの先生でかなりこだわりのお洒落なケーキを作る人なのだ。

その彼女からある日メールが届いた。「今ね、朝だけGHのお手伝いしてるんだ」。「えっ？？どこの？いつから？朝？何手伝ってるの？一人で？どんな人たち？」と、質問攻めにしてしまった。彼女いわく、「障害って様々だね！はじめはどうなるかと思ったよ！」。女の子3人のマンション生活でもう大変！どうなっちゃってんの？の連発だったらしい。わりと派手にけんかもするらしく彼女は心臓がドキドキして大変だったらしい。今では上手に間に入れるようだが、いまだに彼女を困らせているのが歯磨き粉をずつとにゆるにゆるにゆるにゆるに出していることらしい。GHの世話人はそんなの日常茶飯事よ！と鼻にもかけないことかもしれないが、いろんな経験をしている彼女の姿勢と想いは拍手もので、そこに関係している当事者たちは幸せだなんて思う。

相性は確かにあるだろうが、支える人だよなんて思う。どうだろう。

(GH創ろう会 座長・汐田千恵子)

まっ白い広場研究会

1、「まっ白い広場」の実現に向けた動き

子どもが主役となれる遊び場「まっ白い広場」をこの地域に、ということでは準備を進めてきています。

7月3日には広場候補地の下見を実施しました。大人と子ども合わせて30名ほどが参加。獅子吼園のバスに乗り合わせ4カ所回りました。下見をしたのは、①千葉県環境学習アドバイザー内山さんの所有する茂原市清水(白子町との境)にある里山②児童養護施設子山ホーム(大原町)の敷地内の山③夷隅町の相生荘の竹林④睦沢町の土睦小学校脇の鎮守川川べりです。(①③は所有者のご理解あり。)

話し合いの結果、小学校が近い(子どもが自分で行きやすい)・農村環境整備事業により護岸などかなり整備がされている等の理由から④の場所に焦点を当てていくことになりました。

地元睦沢町にも心強い協力者があり、土地の使用許可を得るべく一緒に動いている段階です。今後は地元

住民の方のご理解を得るために、自治会等との話し合いを持つていく予定です。

2、榎町「子どもあそびひろば」について

来る11月12・13日、茂原榎町商店街(旧アーケード街)を2日間歩行者天国にして「子どもあそび広場」というイベントが開催されます。(主催はNPO法人ナルク茂原いちごの会・茂原榎町商店街振興組合)

次世代を担う子どもを軸とした地域コミュニティの再生、商店街の活性化、といった趣旨に賛同し、地域ネットは共催という形で全面協力致します。企画内容としては「昔あそびコーナー」「自然あそびコーナー」「ゲームコーナー」「パフォーマンス広場」等を予定しています。

我々が担当するのは食をテーマにしたコーナー。名付けて「フードパーク(作って食べよう!)」空き店舗を2店舗使わせて頂き、子どもと一緒に作るところから楽しみます。リサイクルマーケットや大道芸もありますので、是非当日のお手伝いをお願いします！

(座長・柴田敬道)

ひなたのページ

長生

渋沢茂 (所長・総合コーディネーター: 40才。陸沢町

在住、妻・中2の愛娘との3人暮らし) ☆好きなことは体を動かすこと、お酒を飲むこと、寝ること。嫌いなことは人ごみ、嘘をつくこと。☆ひなたの活動は、一つ一つのご相談にお応えしながら、仲間づくり、地域づくりを行うこと。そのために必要な調整・下働き何でもやります。ご用命ください。

つるおか

窪岡直子 (総合コーディネーター: 40才と少し) ☆6月末まで高齢者・身体障害者対応の訪問介護事業所に在籍していました。☆深く物考えることは苦手だったのですが…。問題にぶつかり、深く物を考えるきっかけをいただいた時、色んなことが見えてきました。しっかり考えることって難しい！私と一緒に悩みながら考え、成長していく人が増えることが、同時にこの地域を変えていくことと思っています。

ゆきまさ

行政一成 (相談員: 団塊の世代) ☆関西の教材出版社に長年勤めて、2001年より田舎暮らしを求めて陸沢町に移住。長生郡市森林組合の作業などに従事、ミニコミ紙「シティライフ」に月1でエッセイを連載中。☆地域づくり (防災体制も)、里山など環境問題と福祉

…今号は、7月に異動のあった中核センター長生・夷隅ひなたでお世話になっているスタッフの面々を紹介させていただきます。10月よりGH支援ワーカーが1名増えます。本号の8ページ目にご紹介しました。スタッフともどもよろしくお願いいたします。

とのマッチング、根本的には「経済を含めた町づくり」をやりま。☆当事者や支援者の皆さん、「地域ネット」に加入してください！」

おおかわら

大河原博人 (相談員: 40才) ☆創造的なことが好き。ROCK♪が得意！ひなたでは、誠実な思いを保ち続けます。☆地域ネットに参加させていただき、長生ひなたのスタッフにも加えていただき…世界を変えることはできないけど、身の回りの出来ることは努力し続けたいと思います。

渡辺悦子 (相談員) ☆障害者歴半世紀…。福祉の業界にドブプリ浸かる。好きなことは、街中をブラリ旅。嫌いなことは、自己チュー、行く手をさえぎる階段&碍。☆障害当事者の立場からのアドバイザー、障害者の仲間づくりをやりま。

中島民恵 (相談員・事務: 55才) ☆ボーッとして移つりゆく景色を見ていることが好き。数字の羅列は苦手。☆事務と会計はバッチリいきたいな。縁の下力持ちになりたいなと思いつつ…奮闘中。相談された方の一人一人の心の声が聴けるようにしたいと思います。

夷隅

と言ってもらえるようなコーディネーターになりたいです。現在エンタの神様で笑いのネタを吸収中!?です。

えびさわ

海老沢浩 (相談員) ☆団塊の世代の1年前。なので色々損をしている。一般の企業では定年1年前。☆東京デンチ大学卒 (直流まで交流は単位とれず)。職歴は多すぎて書ききれない…転職・転勤が趣味 (今までもらった退職金4回) ☆座右の銘「人間出世するような災難に遭ってはいけない」 ☆7年前「田舎暮らし」求めて大多喜町に。ネオンの好きなパートナーとは半別居状態…日々の食事に事欠いています。

荒井ふみ子 (相談員: 55才) ☆千葉県保育専門学院卒。学生時代の関わり、ボランティアを経てそのまま児童養護施設に居座っていました。☆好きなことは子どもと遊ぶこと。皆の笑顔、喜びを共有することが大好き。自分の意に反して動くことは嫌い。目立つ存在でいることも苦手。縁の下力持ちでいたい。☆仲間づくりの支援 (障害者のお出かけ会を通して) 等を行いながら、皆が元気で暮らせる地域づくりのお手伝いをします。

池口紀夫 (所長・総合コーディネーター) ☆そろそろ高齢者の仲間入り。だが、気持ちだけは青春。生活カウンセラー、児童福祉、障害者(児)福祉の仕事を経る。☆一病院や一施設といった点の福祉から、地域の合力による支援体制を築くことによって、その人らしい地域生活がより送れるようになると良いなと願っている。

ばばさき

馬場崎雅子 (総合コーディネーター: ひなた最年少です) ☆日本社会事業大学卒後、施設あれこれに勤めました。☆好きなことは、景色をながめること。嫌いなことは、こまかいこと。記憶をすることも苦手…。☆あきらめたり、つらいままにいるような場合は、少しおせっかいなくらいが良いみたいで、そういうところでお仕事する必要があると感じています。☆おいしいお店を教えてください！

小高みさち (総合コーディネーター: 40才とちょっと) ☆奄美大島で、一番海のきれいな瀬戸内町で6人兄弟の末っ子として生まれました。独特の言葉使いと島唄が最近なつかしく感じています。☆嬉しい時、悲しい時、酒と唄を忘れない、陽気な島の気質をひきつづ、「会えてよかった」

ひとの福祉力

長生夷隅地域の福祉に関わる「ひと」を紹介するコーナーです。



滝口明美さん

今回は、まわりの人のことを自分のこのように思いやる心やさしき女性のご登場。車いすマラソンに挑む人たちの頑張る姿を見て感動し、自分の持てる力を生かして前向きにいろんなことに夢をふくらませる頑張り屋さん。

◎「大原オレンジ会」

(障害者のお出かけ会)

始めまして、私は結婚をしてから障害者になり、車も持っていたので、車を改良してアクセルとブレーキも手を使って運転しています。車椅子を介助用ではなく、自走用を購入することにになり、生活支援センター「夷隅ひなた」にいろいろと相談に乗ってもらい、役場まで一緒に行っても



らい、この七月にやっと自走用の車椅子を買うことが出来ました。障害者が集まって交流する場所がなくなってきたと、ひなたで話をしていたら、池口所長さんが「みんなで外出しよう」と言ってくれたので急遽話は進み、実行することになりました。ひなたの荒井さんと私が計画を立てて下見をし、七月十三日に「茂原のエアロビクスセンター」にバイキングを楽しもう」という企画を作り、ボランティアの方々の協力を得て大原社協のリフトカーを借り、実行しました。当日の天気は雨でなかったのですが、ひなたに集まり、十時ごろ出発し国道を通り、そこからエアロビクスセンターに行き時間が早かったのでアジサイを見て、十一時ごろから予約をしてあったバイキング料理を楽しみました。話をしながら楽しんで色々な物をゆつく

りとお腹一杯食べて、楽しい時の時間はあつという間に過ぎました。トイレに寄って、帰りに長柄のアウトレット・コンサートに寄り買い物をする人、観覧車に乗る人、ボランティアの人たちについてもいろいろ休憩を取り、車の中でいろいろと話をしたりして楽しみました。ボランティアの皆さんのお陰で、その日一日がとても楽しくみんなの顔に笑顔があり、いろいろな人たちと話が出来たことが良かったと思います。

私たち障害を持った人たちが外に出て楽しむことが少なくなった今、誰もが一緒に楽しむことが出来るように、「夷隅ひなた」でこれからいろいろな企画を立てていきたいと思っています。皆さんも一緒に楽しみたいように。ちなみに会の名前は大原にはオレンジランドがあるので、オレンジ会と付けました。(次回は茂原の映画館へお出かけの予定です。)

◎ 絵手紙をやって

このごろ絵手紙が流行っていて、絵手紙の楽しさは見たものをそのままに絵に描く、上手に描くのではなく、下手でもいい、ハガキいっぱいその物を描き、相手の想像力を引き立たせるのが楽しさだと思います。

たとえば野菜なら途中まで描いて、



その先は相手に届いた時にその人の想像で見たときに、この先は折れていたり虫が喰っていたり、曲

がっていたりして、こんなのかな、あんなのかな、それとも…なんて想像をしたらうと楽しいと思いませんか。字も下手でもいい、上手に書かずに、一言書いて、相手にそれが伝わればいいんだと思います。

私もヤックスに行つた時に初めて絵手紙を始め、ボランティアの人たちが丁寧に指導してくれるので、



それから行くのが楽しく、障害者を持った人、年配の人、誰でもが楽しく出来るところが良いと思います。

【作品はヤックス御宿デイサービス提供】
(文・滝口明美さん)

長生・夷隅に強力なGH支援ワーカー登場！ 菊地隆夫さん

県のモデル事業で、長生・夷隅の中核センターひなたに 10 月 1 日より GH 支援ワーカーが加わりました。

仕事は、世話人からの運営に関する相談や苦情の解決、利用者の支援計画に関するお手伝い、GH を地域で支えるための体制作り、利用者の日中活動や就労などのコーディネート、GH 開設などのお手伝い、世話人・代替職員に関する情報提供など。



ひなたの一員として仕事を始めるのは菊地隆夫さん——長年地域の福祉資源作りや施設の経営や親の会のコーディネートもしてきた方です。障害者のお父さんでもあり、障害者のことや“障害者問題”について理解の深い人です。

(長生・夷隅地域の暮らしを支える会
理事長 池口紀夫)

<編集寸記>

かつて言われたことがあります、「里山を守るよりもワタシを救って！」と。ご時世を反映した深刻な声ですが、私たちは里山にあたるものも、<ひとりのワタシ>も両方守りたいと思っています。

盛りだくさんの、意欲をひめた<濃密>号をお届けします。

山見ればホッホー 木菟(ずく)に見守られ (行政)

ひなたの人



題字を書いてくださった方

濱田真史さん

ボランティアグループ「ぶるどづ」の会長として活動しています。少し照れ屋ですが芯が一本通っていて、常に一生懸命です。現在科目等履修生として国際武道大学に通っています。将来は教師を目指し、目下勉強中だそうです。

○「ほっとスペース・くれよん」

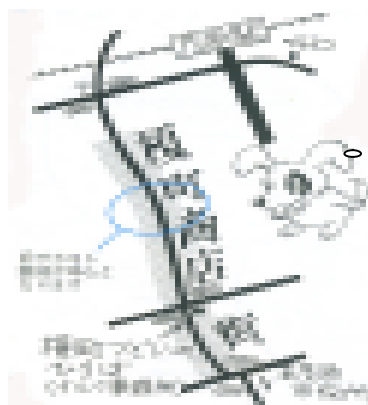
喫茶 & フリースペース

11月3日(木) 本納にオープン！

当日はお餅つきをやりま
す。
のんびりできる雰囲気です
ので、
皆さんお気軽にいらして
ください。

電話・0475・34・4181(代)
または 0475・32・4680

(寺沢さん・信平さんまで)



絵：子どもセンター サクラダ

協賛：地域福祉ネット

昔あそび、自然あそび
商店めぐりスタンプラリー
子どもフリーマーケット
作って食べるフードパーク
子ども外ビデオ撮影隊
ゲーム・紙芝居・将棋教室
ミニSL乗車、救急法
パフォーマンス、作品展示
ロボット相撲、ギャラリー

〇あそびにおいでよ榎町
11月12(土) 13(日)

主催・榎町商店街振興組合
ナルク茂原「いちごの会」

10時～16時

〓お知らせ〓

長生・夷隅地域福祉ネットワーク

障害のある方をはじめ、お年寄りからお子さんまで、当事者のご家族と支援者の幅広い参加をお待ちしております。

入会申し込み・問い合わせ

事務局：担当
千葉県茂原市長尾 2694

TEL

FAX

メールアドレス

渋谷 茂

中核地域生活支援センター長生ひなた

0475(22)7859

0475(22)7844

hinata.tyousei@lilac.plala.or.jp

郵便振替口座：00180-9-610398

(名義：長生夷隅地域福祉ネットワーク)

会員：本会の趣旨に賛同する個人及び団体

会費：年額1口 2,000円

